



平成 28 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 大黒屋ホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 小川 浩平  
 (コード番号 6993 東証第2部)  
 問合せ先 総務部長 岩瀬 茂雄  
 (TEL. 03-3448-7300)

**平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）の連結業績予想と連結実績値との差異に関するお知らせ**

平成 28 年 8 月 9 日に公表いたしました平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）（平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日）の連結業績予想値と、本日公表の平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）の連結実績値において、下記のとおり差異が生じたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想値と連結実績値との差異

平成 29 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想値と連結実績値との差異  
 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	親会社株主に 帰属する 1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	10,666	478	126	△76	△0.90
今回実績値 (B)	10,446	165	△205	△225	△2.84
増減額 (B－A)	△220	△313	△331	△149	
増減率 (%)	△2.1	△65.5	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期)	8,737	990	851	285	3.65

2. 差異の理由

株式会社大黒屋（以下「大黒屋」と言う）において、平成 27 年 7 月のチャイナショック以降の免税需要の減速や昨年末のいわゆる「爆買いの禁止」とも言われるような中国政府の姿勢の影響により、高額品の売れ行きが想定以上に鈍化したことに加え、2016 年からの円高の加速が、外国人観光客におけるブランド品の割高感につながり、平成 28 年 8 月 9 日時点における想定以上の免税売上の低迷となりました。

この免税売上の低迷における影響をカバーするため、円安時に購入した在庫を処分したことで、大黒屋における、売上総利益率が 26.0%と想定より悪化したことや、大型店である大黒屋福岡天神本館の開店に伴うコストの増加、外形標準課税の改正による租税公課の増加、新たな取り組みとしてライン査定開始に伴うコストの増加、さらに新システムの導入に伴う関連費用の増加などの販売費及び一般管理費の増加が、主な要因です。

以上